
お弁当での小ネタ

かさのきず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お弁当での小ネタ

【著者】

Z6571F

【作者略】

かわのわざ

【あらすじ】

彼氏のためにお弁当を作るとするも、なにを作れば喜んでもらえるかわからない！そこで何気なく聞き出そうとするが……

カレー祭りだ！

「あのさ、好きなものってある?」

「君」

即答すると、彼女は一瞬にして顔を真っ赤にする。付き合い始めてから1ヶ月。そろそろ、じつじつやり取りにも慣れてきたかな、と思つてたんだけど。

「……わ、私」

「あの~、大丈夫?」

今にも倒れそうになる彼女の眼前で手を振つてみるも、まったく氣付かない様子。

こりや重症だ。

「わ、わわわ、私を……食べ、るるるるつてー?」「つておい!」

なんの話をしている!

「だつて、好きな食べ物聞いたら、私だつて……」

「いや、好きなものとしか聞いてないから」

とりあえず、彼女の勘違いを解いておく。

もう一ヶ月になるんだから、そのくらいやらないか。なんて思う人もいるかも知れないが、僕はこう見えて純情派だ。

「好きな食べ物、か。カレーとかかな?」

まだ赤くなつている彼女に言つ。

いや、カレーだつたら、大体の人が好きだし……ね。

「か、カレーね。ようし、わかつた。明日はカレー祭よ!」

「なんか、さつきからお前のテンションについて行けないんだけど」「明日は楽しみにしててね!」

……カレー祭をか?

お弁当一

「お弁当だよー。」

「ぐばあー。」

ラリアットを食らって、僕は椅子ごと後ろに倒れた。

なんでこんなことになつたのだらう。僕は過去を振り返つて自分の落ちを探すが、残念ながらラリアットを食らう原因は、どこにも見つからなかつた。

「い、いきなり何するんだ……。それと、やつぱりお前、テンションおかしい

「だつて、お弁当だよー。」

至極当然そうに言つが、残念ながら僕には理解できない。

「はい、これつー！」

そして、彼女が笑顔とともに取り出したのは、くまさん柄のかわいらしい包みに包まれた重箱。ますますもつて理解できない。

お弁当を作つてくれたつもりなのか!? でも一人分には4段も必要ないと思うぞー！

「それじゃあ、食べよー。」

さらに、彼女は四つの重箱の全てを僕のほうに寄せてきた。

僕は、覚悟を決めた。

一応、僕たちは付き合つてゐるんだ。これくらいのこと、彼女のためにしてやれなくてどうする。

「いざ、尋常に勝負。」

「あれ? なんかおかしなテンションになつてゐる?」

彼女の訝しげな視線をよそに、僕は重箱を開く。

そして、その中から現れた敵は

1面のご飯だつた。

まあ、最初だからな。それにしても多いけど。

後は色とりどりのおかずなんだらう。
しかし、世の中そう甘くはなかつた。

2箱目、3箱目と、開けても米しか現れない。なんの拷問だ？ これ。

残す重箱は後一個。

僕は、痺れるような緊張の中、最後の蓋を開けた。

「…………なんだこれ」

レトルトカレーだ。そんなことはわかつてゐる。なんでレトルトカレー？

「だつて、昨日カレーが好きだつて」

限度があると思います。

「カレーならいくらでも食べれるつて、伝説が」
誰だよ。そんなこと言つたカレーバカは！？

「ふう」

まあ、いいか。

どんなものだつて、彼女が僕のために作つてくれたんだ。文句を言つ筋合ひなんてない。

それに、まあ……多少は嬉しいしな。

僕はレトルトカレーの封をきつて、「」飯の上にぶつかける。
そして、渡されたスプーンを手にとり、
「いただきます」と、大きな声で言つた。

レトルトカレーは、冷たかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6571f/>

お弁当での小ネタ

2010年10月15日01時46分発行